【第1刷をお持ちの方】

「獣医微生物学 第 4 版」正誤表

	誤	正			
68 頁 左段 下から 19 行目	フェリン、ヘモグロビンなどの鉄結合蛋白質(シ	フェリン、ヘモグロビンなどの鉄結合蛋白質との			
	デロフォア siderophore) との複合体であり、	複合体であり,			
68 頁 左段 下から 14 行目	鉄結合蛋白質を分泌し、鉄-シデロフォア結合体	鉄結合蛋白質(シデロフォア siderophore)を分			
		泌し,鉄-シデロフォア結合体			
80頁右段下から6行目	80%, イソプロパノールでは 30 ~ 50% の至適	80%, イソプロパノールでは 50 ~ 70% の至適			
112頁 右段 下から 12 行目	性結核菌), Y. enterocoltica (エルシニア腸炎) の	性結核菌), Y. enterocoltica (腸炎エルシニア) の			
113頁表 8-3「仮性結核」の「病原体」の項	Y. enterocolitica	Y. pseudotuberculosis			
116頁 左段下から8行目	至適培養温度は37℃で、普通寒天培地やTSA 培地などの一般培地でよく発育し、	普通寒天培地や TSA 培地などの一般培地でよく発育し、			
122頁左段「(1)分類」の1行目	パスツレラ Pasteurella 属,マンヘイミア Mannheimia 属および	マンヘイミア Mannheimia 属および			
123 頁 右段 上から 10 行目	ある易熱性の皮膚壊死毒素 dermonecrototic toxin	ある易熱性の皮膚壊死毒素 dermonecrotic toxin			
155頁表8-23「病原体」の項,下から2段目	Plebotella sp.	Prevotella sp.			
294 頁 左段 下から 1 行目	肝炎ウイルスに関する生化学的な知見が多く得ら	やC型肝炎ウイルスに関する生化学的な知見が多く得ら			
466 頁 右段 上から 1 行目	属,ナニチア Nanizzia 属,トリコフィトン	属,ナニチア Nannizzia 属,トリコフィトン			
467 頁 表 14-2「皮膚糸状菌症(人 獣)」の「主要原因菌」1 行目	Microsporum canis, Nannizia gypsea,	Microsporum canis, Nannizzia gypsea,			
467 頁 表 14-2「スポロトリクス症 (人獣)」の「主要原因菌」2 行目	S. schenckii sensu stricto	S. schenckii sensu stricto			
467 頁 右段 下から 3 行目	70% が Microsporum canis で、Nannizia gypsea	70% が Microsporum canis で、Nannizzia gypsea			
468 頁 左段 上から 6 行目	への感染源となる。その他 Nannizia gypsea,	への感染源となる。その他 Nannizzia gypsea,			
468 頁 右段 上から 1 行目	(2) Nannizia gypsea および N. incurvata	(2) Nannizzia gypsea および N. incurvata			
468 頁 図 14-9 キャプション	Nannizia gypsea の集落	Nannizzia gypsea の集落			
469頁図14-10キャプション	Nannizia gypsea の大分生子	Nannizzia gypsea の大分生子			
469 頁 左段 上から 3 行目	関係の深い土壌中から効率に分離される。	関係の深い土壌中から高率に分離される。			
474 頁 右段 上から 9 行目	brasiliensis, S. schenckii sensu stricto,	brasiliensis, S. schenckii sensu stricto,			
474 頁 右段 上から 12 行目	globosa, S. schenckii sensu stricto,	globosa, S. schenckii sensu stricto,			
474 頁 右段 下から 11 行目	原性が認められる。スポロトリクスは二形成菌	原性が認められる。スポロトリクスは二形 <mark>性</mark> 菌			
474 頁 右段 下から 6 行目	スポロトリクスは、世界各地の温暖~熱帯に	スポロトリクスは、世界各地の温 帯 ~熱帯に			
475 頁 左段 上から 14 行目	sensu stricto で, ブラジルと同様に	sensu stricto で、ブラジルと同様に			

	誤	正			
19頁右段下から2行目	とも呼ばれる)とペプチドグリカン層の間にペリプラ スム間隙 periplasmic space が	とも呼ばれる)と <mark>外膜</mark> の間にペリプラスム間隙 periplasmic space が			
20頁図2-8の右側の中ほど	ペプチドグリカン層	・ベブチドグ・ベリブラスム間隙			
64 頁 表 5-1 右列「毒素による症状」の 1 行目	水溶性下痢	水様性下痢			
114頁表8-4	表8-4 Yersinia 属主要菌の生化学性状 Y. pestis Y. pseudotuberculosis Y. enterocolitica Y. ruckeri - + + +	表8-4 Yersinia 属主要菌の生化学性状 Y. pestis Y. enterocolitica Y. pseudotuberculosis Y. ruckeri - + + +			
125 頁 左段 下から 1 行目	表 8-11 に 示 し た よ う に, H. influenzae と Mannheimia haemolytica はオキシダーゼを産生し, 発育に際して X 因子と V 因子を両方要求するが, H. parasuis と Avibacterium paragallinarum はオキシダーゼを産生せず, V 因子のみを要求する。	表 8-11 に示したように、H. influenzae は、発育に際して X 因子と V 因子を両方要求するが、H. parasuis と Avibacterium paragallinarum は、V 因子のみを要求する。			
125 頁 表 8-11 「M. haemolytica」の列の上 から 2 行目, 3 行目	+ +	_ _			
128頁 右段上から 1 行目	エステラーゼやプロテアーゼなどの細胞外酵素は	エラスターゼ <mark>をは</mark> じめとするプロテアーゼなどの細胞 外酵素は			
149頁 左段 上から 4 行目	感染する。細胞内では細胞基質で増殖し,	感染する。細胞内では細胞 <mark>質</mark> 基質で増殖し,			

【第2刷をお持ちの方】

「獣医微生物学 第 4 版」正誤表

	誤	正		
116頁 左段 下から 8 行目	至適培養温度は37℃で、普通寒天培地やTSA 培地などの一般培地でよく発育し、	普通寒天培地や TSA 培地などの一般培地でよく発育し、		
122頁左段「(1)分類」の1行目	パスツレラ Pasteurella 属,マンヘイミア Mannheimia 属および	マンヘイミア Mannheimia 属および		
123 頁 右段 上から 10 行目	ある易熱性の皮膚壊死毒素 dermonecrototic toxin	ある易熱性の皮膚壊死毒素 dermonecrotic toxin		
142 頁 左段 下から 15 行目	スピリルム Spirillim 属は,	スピリルム Spirillum 属は,		
294 頁 左段 下から 1 行目	肝炎ウイルスに関する生化学的な知見が多く得ら	やC型肝炎ウイルスに関する生化学的な知見が多く得ら		

	±					→	
	誤			正			
19 頁 右段 下から 2 行目	とも呼ばれる)とペプチドグリカン層の間にペリプラ		とも呼ばれる)と外膜の間にペリプラスム間隙				
19 负 相权 下次 5 2 11 日	スム間隙 periplasmic space	が		periplasmi	ic space が		
20頁図2-8の右側の中ほど	ペリプラスム間除			ペプチドグリカン層			
64 頁 表 5-1 右列「毒素による症状」の 1 行目	水溶性下痢			水様性下痢			
114頁表8-4	表 8-4 Yersinia 属主要菌の生化学性料	K		表 8-4 Yers	inia 属主要菌の生化学	性状	
	Y. pestis Y. pseudotuberculosis	Y. enterocolitica Y. ruc	eri	Y. pestis	Y. enterocolitica	Y. pseudotuberculosis	Y. ruckeri
	- +	+ +		_	+	+	+
125 頁 左段 下から 1 行目	表 8-11 に 示 し た よ Mannheimia haemolytica は 発育に際して X 因子と V 医 parasuis と Avibacterium par ゼを産生せず、V 因子のみを	オキシダーゼを産生 子を両方要求するが agallinarum はオキシ	し, H.	育に際し	て X 因子と V E L Avibacterium p	うに, H. influenzo 因子を両方要求す paragallinarum は,	⁻ るが, H.
125 頁 表 8-11 「M. haemolytica」の列の上 から 2 行目, 3 行目	+ +						
128 頁 右段 上から 1 行目	エステラーゼやプロテアーゼなどの細胞外酵素は		エラスターゼをはじめとするプロテアーゼなどの細胞 外酵素は				
149 頁 左段 上から 4 行目	感染する。細胞内では細胞基質で増殖し,			感染する。細胞内では細胞 <mark>質</mark> 基質で増殖し,			

【第3刷をお持ちの方】

「獣医微生物学 第 4 版」正誤表

	誤	正			
19頁右段下から2行目	とも呼ばれる)とペプチドグリカン層の間にペリプラ スム間隙 periplasmic space が	とも呼ばれる)と外膜の間にペリプラスム間隙 periplasmic space が			
20頁図2-8の右側の中ほど	一ペプチドグリカン層	ペプチドグリカン層・ペリプラスム間隙			
64 頁 表 5-1 右列「毒素による症状」の 1 行目	水溶性下痢	水様性下痢			
114頁表8-4	表8-4 Yersinia 属主要菌の生化学性状 Y. pestis Y. pseudotuberculosis Y. enterocolitica Y. ruckeri - + + +	表 8-4 Yersinia 属主要菌の生化学性状 Y. pestis Y. enterocolitica Y. pseudotuberculosis Y. ruckeri - + + +			
125 頁 左段 下から 1 行目	表 8-11 に 示 し た よ う に, H. influenzae と Mannheimia haemolytica はオキシダーゼを産生し, 発育に際して X 因子と V 因子を両方要求するが, H. parasuis と Avibacterium paragallinarum はオキシダーゼを産生せず, V 因子のみを要求する。	表 8-11 に示したように、H. influenzae は、発育に際して X 因子と V 因子を両方要求するが、H. parasuis と Avibacterium paragallinarum は、V 因子のみを要求する。			
125 頁 表 8-11 「M. haemolytica」の列の上 から 2 行目, 3 行目	+ +				
128 頁 右段 上から 1 行目	エステラーゼやプロテアーゼなどの細胞外酵素は	エラスターゼをはじめとするプロテアーゼなどの細胞 外酵素は			
149 頁 左段 上から 4 行目	感染する。細胞内では細胞基質で増殖し,	感染する。細胞内では細胞 <mark>質</mark> 基質で増殖し、			